

二次元電気泳動によるタンパク質の解析から見たイネ紋枯病抵抗性系統の特性

川原涼子*・野瀬昭博・東江栄・和佐野喜久夫（佐賀大農）

イネ紋枯病はイモチ病に並ぶ水稻栽培の重要病害の一つであり、葉鞘に紋状の病斑を形成する。本研究では、イネ紋枯病抵抗性系統と感受性系統を用いて、イネ紋枯病における抵抗性機構をタンパク質発現の視点から検討した。二次元電気泳動によって両系統の紋枯病菌感染前後におけるタンパク質発現を比較した結果、感受性系統の葉鞘において接種 4 日目に代謝関連タンパク質の発現が抑制される傾向にあり、罹病に伴って感受性系統では一次代謝に抑制的な変動が起こっていることが示された。